

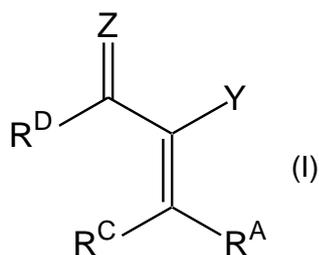
(別紙)

訂正後の特許請求の範囲

【請求項 1】

式 (I) :

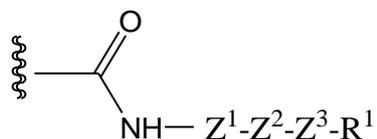
【化 1】



(式中、

R^A は式 :

【化 3】



(式中、式： $-Z^1-Z^2-Z^3-R^1$ で示される基は、4-フルオロベンジル) ；

Yはヒドロキシ；

Zは酸素原子；

R^C 及び R^D は一緒になって隣接する炭素原子と共に5員又は6員のヘテロ原子を含んでいてもよい環を形成し、該環はベンゼン環との縮合環であってもよい；

R^C 及び R^D が形成する環は、式：−Z¹ − Z² − Z³ − R¹（式中、Z¹ 及び Z³ はそれぞれ独立して単結合又は炭素数 1～6 の直鎖状若しくは分枝状のアルキレン；Z² は単結合、−S−、−SO−、−NHSO₂−、−O−又は−NHCO−；R¹ は置換されていてもよいフェニル、置換されていてもよい 5～8 員の芳香族複素環式基、置換されていてもよい炭素数 3～6 のシクロアルキル又は置換されていてもよいヘテロサイクル（「置換されていてもよい」の各置換基は、それぞれ独立して、アルキル、ハロアルキル、ハロゲンおよびアルコキシから選択される））
 で示される基で置換されていてもよく；

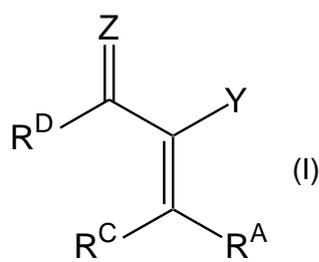
さらに、R^C 及び R^D が形成する環は、式：−Z¹ − Z² − Z³ − R¹（式中、Z¹、Z²、Z³ 及び R¹ は前記と同意義である）で示される基で置換されている以外の位置で、かつ、=Z が結合している炭素原子の隣接位でアルキルにより置換されていてもよい。）

で示される化合物、その製薬上許容される塩又はそれらの溶媒和物を有効成分として含有する、インテグラーゼ阻害剤である医薬組成物。

【請求項 2】

式 (I) :

【化 1】



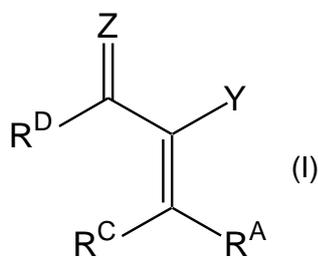
¹、Z²、Z³ 及びR¹ は前記と同意義である) で示される基で置換されている以外の位置で、アルキルにより置換されていてもよい。

で示される化合物、その製薬上許容される塩又はそれらの溶媒和物を有効成分として含有する、インテグラーゼ阻害剤である医薬組成物。

【請求項3】

式(I)：

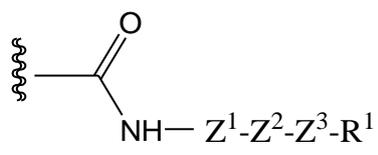
【化1】



(式中、

R^A は式：

【化3】



(式中、式：-Z¹-Z²-Z³-R¹で示される基は、4-フルオロベンジル)；

Yはヒドロキシ；

Zは酸素原子；

R^C 及び R^D は一緒になって隣接する炭素原子と共に 6 員のヘテロ原子を含む環を形成し；

R^C 及び R^D が形成する環は、式： $-Z^1 - Z^2 - Z^3 - R^1$ （式中、 Z^1 及び Z^3 はそれぞれ独立して単結合又は炭素数 1～6 の直鎖状若しくは分枝状のアルキレン； Z^2 は単結合、 $-S-$ 、 $-SO-$ 、 $-NHSO_2-$ 、 $-O-$ 又は $-NHCO-$ ； R^1 は置換されていてもよいフェニル、置換されていてもよい 5～8 員の芳香族複素環式基、又は置換されていてもよい炭素数 3～6 のシクロアルキル（「置換されていてもよい」の各置換基は、それぞれ独立して、アルキル、ハロアルキル、ハロゲンおよびアルコキシから選択される）；ただし、 Z^1 、 Z^2 及び Z^3 は同時に単結合ではない）で示される基で、 $=Z$ が結合している炭素原子を 1 位とした場合の 3 位で置換されていてもよく；

さらに、 R^C 及び R^D が形成する環は、式： $-Z^1 - Z^2 - Z^3 - R^1$ （式中、 Z^1 、 Z^2 、 Z^3 及び R^1 は前記と同意義である）で示される基で置換されている以外の位置で、かつ、 $=Z$ が結合している炭素原子の隣接位でアルキルにより置換されていてもよい。）

で示される化合物（ただし、 $N-(4\text{-フルオロベンジル})-5\text{-ヒドロキシ}-1\text{-メチル}-6\text{-オキソ}-1, 6\text{-ジヒドロピリミジン}-4\text{-カルボキサミド}$ を除く）、その製薬上許容される塩又はそれらの溶媒和物を有効成分として含有する、インテグラーゼ阻害剤である医薬組成物。